

舞子の名建築に学ぶ住まいの庭 「永く住み続けられる住まいづくり」に活かすヒント発見

建築の楽しい世界的一端に触れていただく機会として、街中の優れた建築物に身を置き、市民と建築士が共に見て、学び、語る、体験型けんちく教室。今回は、舞子公園内に建つ「旧木下家住宅」を会場にして、「住まいの庭」をテーマに、戦前の名邸見学とそこでの生活体験を通して〈わが家の愛着づくり〉に活かしていただく、気軽に参加できる事業として実施した。

開催日：平成25年11月16日（土）

会場：国登録有形文化財 旧木下家住宅（神戸市垂水区東舞子町）

参加者：一般市民11名（内子供1名）

講師：杉田美子（旧木下家住宅館長）、木山正典（すまいスクール委員）

スタッフ：兵庫県建築士会神戸支部すまいスクール委員会6名

当日の内容

1. 旧木下家住宅のお話と見学

庭を望む座敷で、杉田館長から1. 建物の変遷や見所 2. 昭和初期の良質な数寄屋造和風住宅の構えを庭も含めほぼ完全に残す希少性から国の有形文化財に登録された経緯についてお話をいただいた。あわせて、かつての持ち主から聞き採ったこの住宅に寄せる家族の想いや愛着などが紹介され、住み手の貴重な声を伺うこともできた。

建物見学では、館長直々のガイドで各室を見て回った。茶室の見学では、特別に中庭から踊り口（にじりぐち）を使って入室させていただき、普段できない生活体験と、ていねいな館長の案内に皆さん熱心に耳を傾けていた。庭園では、たまたまその場に居合わせた地元のボランティアガイドさんから、庭の植栽と主屋についてのミニガイドをいただくこととなり、この住宅の理解も一層深まり、充実した見学タイムを持つことができた。



2. 「住まいの庭」についてのスライド講義

委員会スタッフ木山による「庭のいろんな楽しみ方や手入れなど、我家の愛着づくりのヒントをみつけよう！」と題したミニ講義では、襖をスクリーンにして、国内外の有名建築等に見る庭の楽しみ方や、開口と庭木の見え方、植栽の剪定・時期・手入れなど興味深い多くの事例の紹介がされた。「庭も住まいと同様に大事に育てることが我家の愛着につながる」とのまとめに皆さんも頷かれていた。

3. 「庭に託す夢や想い」を発表

スライドを見た後、4班に分かれてワークショップ形式で「住まいの庭」について参加者に思い思いに話をいただいた。その後、座敷に集まって暖かいお茶とお菓子をいただきながら、ここでの体験をもとに「みなさんの庭に託す夢や想いを真剣に語ろう」と、班ごとに参加者の声を紹介し合い、それぞれ拍手喝采だった。その中で、母親と一緒に参加した小学生が、大人に劣らずしっかりと自己主張する声に皆さん感心しきりの場面もあり、終始和やかで活発な意見交換に時間を惜しみながら会を終了し、参加者アンケートでは「実際に参加してみてとてもよかった」との声を多く聞くことができた。

参加者がもう少し多ければという反省点もあったが、想定外の子供やボランティアの参加による盛り上がり、会場提供者の目に見えない多くの協力などに支えられ、スタッフにとっても充実した1日となった。

